

平成26年度事業報告書

大慈学童クラブ

1. 《平成26年度法人ビジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. 《基本方針》

- ①児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき児童の人権を尊重する。
- ②共同で行動することを通して、生活習慣、人間関係、思いやり等が身につくように援助する。

3. 《大慈学童クラブにおける中長期ビジョン》

- ・地域福祉の一環として、地域のニーズに応え、利用者が安心して利用出来るサービスを提供する。また各利用者が集団生活を通し、思いやりの心と考える力を育める様、努める。

4. 《目標》

①利用者のニーズを把握し、ニーズに沿ったサービスを提供する。

- A) 定額制での延長保育の受け入れ。
- B) 対保護者への子どもに関する相談業務。
- C) 昼食会の質の向上。
- D) 行事内容の充実

・原則、延長保育は19:00までとしているが、仕事で19:00までにお迎えに来られない場合等、利用者のニーズに応じて、19:00以降も延長保育を行った。最長20:20までの利用があった。(18:00、19:00に軽食提供有り)

・警報時、学校が休みの場合でも保護者は仕事がある為、保護者の送迎があれば、預かりを行った。

・学童から習い事や病院に通える様、個別に対応した。

・保護者のニーズに応え、昼食会は毎月実施し、少なくとも月2回、昼食の提供を行う様にした。また彩り等にも気を配った食事内容を考えた。

②リスクマネジメントに基づき、リスクの軽減を図る。

- A) リスク会議の場だけではなく、日頃よりリスクマネジメントを意識し、リスクの軽減に努める。

・リスクマネジメント会議の場だけではなく、日頃よりリスクを感じた場合は、職員間で話し合い、改善に努めた。同じ繰り返しをせず、また少しでも改善される様に常日頃より職員間で声を掛け合い、リスクに対する意識の共有化を図っていきたい。

・不審者の情報が入った時の対応を保護者に聞き、個別に実施した。また、学童中、警報が出た時は、送迎等について保護者に連絡確認し、個別に対応した。

③職員の資質の向上。

- A) ビジョンに沿ったサービスの提供、保育が出来る様に各職員、資質の向上に努める。(研修参加・価値観の共有化等)

・職員の資質の向上を図る為に施設外の研修だけではなく、施設内に講師を招き、コーチング(心理)研修を引き続き行った。今年度は講師との一対一でのコーチングも始まり、より実践での活用術を学ぶことができた。今後も資質の向上を意識し、研修等に参加していきたい。

5. <<保健衛生>>

- ・集会室のエアコンのクリーニングを業者に依頼した。
- ・集会室の床を毎日(日曜日は除く)、モップをかけた。
- ・害虫駆除を行った。

6. <<消防避難訓練>>

- ・昼間実施の場合に参加した。

7. <<広報>>

- ・保護者、各区役所、神戸市役所こども企画育成部に、学童新聞を発行した。
- ・新聞の内容に生活情報や豆知識等、暮らしに役立つものを加え、内容の充実を図った。

8. <<会議>>

学童委員会(月1回)

→学童に関する事(個別に対応が必要な児童、学童のルール、保護者への対応等)について学童委員長を主として、話し合いをした。今後も利用者のニーズに沿ったサービスが提供出来る様に、有意義な会議にしていきたい。

9. <<行事内容>>

①のびっ慈day

→今年度も、のびっ慈dayの日は宿題をせず、子ども達がのびのびと過ごせる様、プログラム(遊び)を考えた。夏休みの暑い日等では、水遊びを行い、他の長期休みでは一日遊べるプログラムを実施した。

②中央体育館

→昨年度は、のびっ慈dayで利用したが、今年度はグループワークや長期休みに利用した。一日使用でき、暑さ対策にもなるため、今後も利用していきたい。

③個別懇談会

→昨年度までは年一回の6月(小学校と合わせた週)に行っていたが、今年度は12月(6月同様)にも行い、年2回実施した。理由としては、夏休み明けより児童一人ひとりの個性が出てくるため、学童での様子を伝えたり、保護者からの意見等を話しやすい環境で聴けたりすることができるためである。参加された保護者は多くはなかったが、落ち着いた場所で保護者と直接話せる良い機会となった。来年度も利用者が安心して利用できるよう、職員間で意見を出し合い、より良い保育を目指していきたい。

月	日	行 事	月	日	行 事
4	8	昼食会	9	1	昼食会
	9	花見		9	のびっ慈 day (ドッチボール)
	19	昼食会		13	昼食会
	21	のびっ慈 day (万華鏡作り)		29	グループワーク (王子動物園)
5	17	昼食会	10	4	昼食会
	27	のびっ慈 day (餃子の皮でピザ作り)		25	昼食会
	31	昼食会		29	のびっ慈 day (ダーツ作り)
6	7	昼食会	11	31	ハロウィンパーティー
	16	グループワーク (大倉山公園・中央体育館)		10	グループワーク (淡路島)
	21	昼食会		15	昼食会
	24	個別懇談会 (希望者対象) (6/30まで)	25	のびっ慈 day (室内ゲーム)	
	30	のびっ慈 day (七夕飾り付け、ゼリー)		29	昼食会
7	18	昼食会	12	3	個別懇談会 (希望者対象) (12/6まで)
	23	昼食会		13	昼食会
	24	ベイ板宿スイミング		24	のびっ慈 day (ケーキのデコレーション・リース作り)
	25	のびっ慈 day (シャボン玉遊び)		25	クリスマス会
	28	昼食会		26	昼食会
	31	ベイ板宿スイミング			7
8	1	昼食会	1	17	昼食会
	4	スイカ割り		27	のびっ慈 day (鬼の面作り)
	5	のびっ慈 day (水遊び・うちわ作り)	2	3	節分 (まめまき)
	6	交通安全教室		5	のびっ慈 day (デコチョコ)
	7	ベイ板宿スイミング		7	昼食会
	8	昼食会	3	21	昼食会
	11	運動遊び (中央体育館)		3	ひな祭り (雛壇を飾る)
	12	昼食会		23	昼食会
	18	ボランティア (読み聞かせ)		24	お別れ会
	19	昼食会		25	昼食会
	20	ボランティア (昔遊び)		27	のびっ慈 day (オリジナル巾着作り)
	21	ベイ板宿スイミング			
	22	のびっ慈 day (水遊び)			
	23	地藏盆			
	26	ボランティア (読み聞かせ)			
	27	昼食会			
	28	ベイ板宿スイミング			
	29	屋台村			

10. 《利用人数》

初日在籍数 (人)

学年 月	1年	2年	3年	合計	学年 月	1年	2年	3年	合計
	4	11	14	15		40	10	9	15
5	11	14	15	40	11	9	15	12	36
6	11	15	12	38	12	9	15	12	36
7	9	15	12	36	1	9	15	12	36
8	9	15	12	36	2	9	15	12	36
9	9	15	12	36	3	9	15	12	36

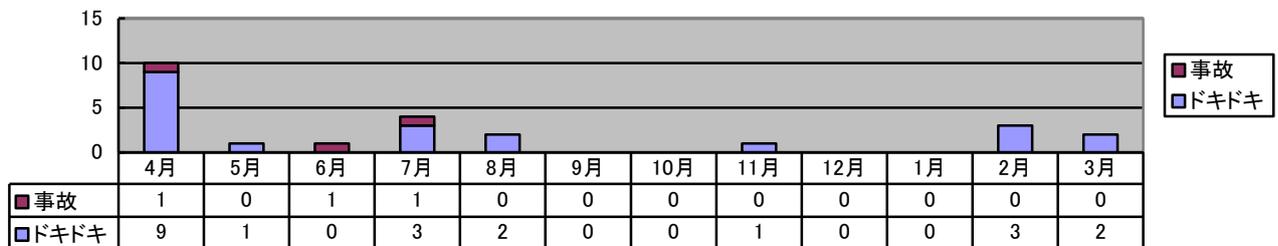
11. 《リスクマネジメント報告》

① 26年度ヒヤリハット報告件数・・・21件

※25年度年間報告件数25件

→4月、新学童が入会するにあたり、伝達ミスや記入漏れなどの対応に関するミスが多かった。

ヒヤリ報告(件数)

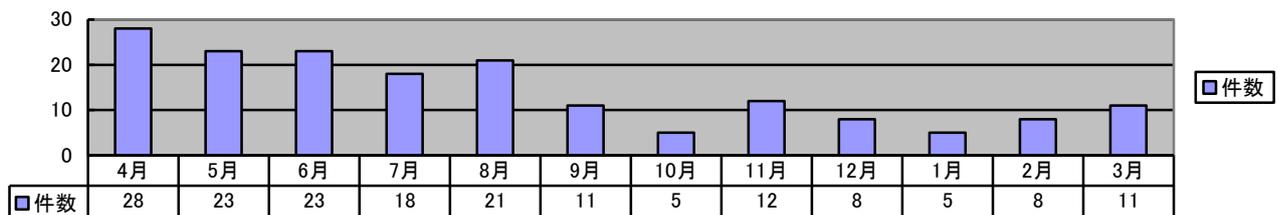


② 26年度ヒヤリハット以外のケガ報告件数 (ケガノート)・・・173件

※25年度年間報告件数215件

→新年度の初め(4月～6月)の半数以上が一年生のケガによるものだった。

ケガ報告(件数)



③発生場所

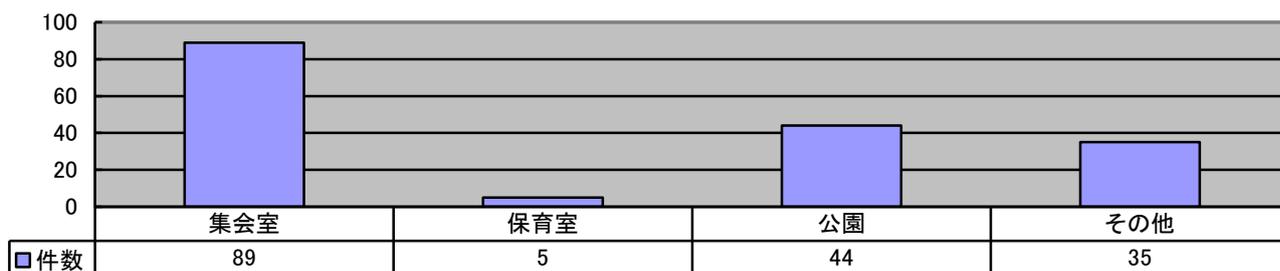
→連絡帳への記入漏れ、対応についての確認ミスが多いため、集会室が多い。

ヒヤリ報告(場所)



→集会室で過ごす時間が一番長いため、件数も多い。

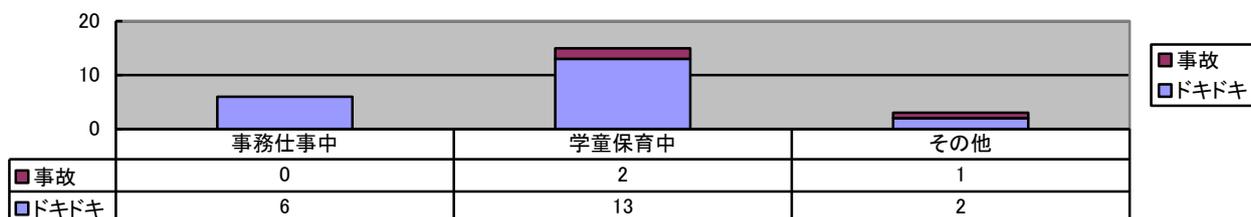
ケガ報告(場所)



④発生状況

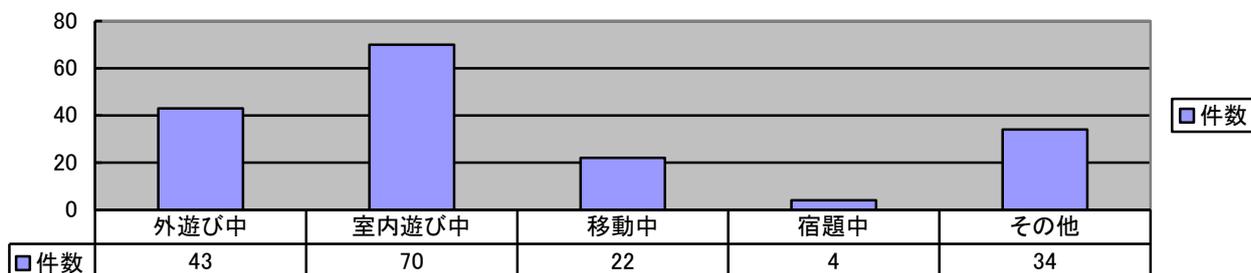
→発生場所別件数と同様、学童保育中の職員によるミスが多い。

ヒヤリ報告(状況)



→集会室で過ごす時間が長いため、それに伴い件数も多い。

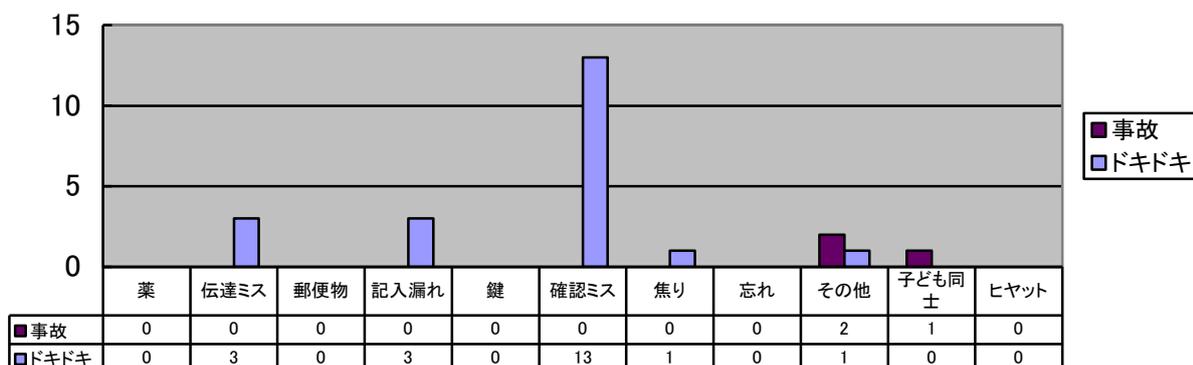
ケガ報告(状況)



⑤発生内容

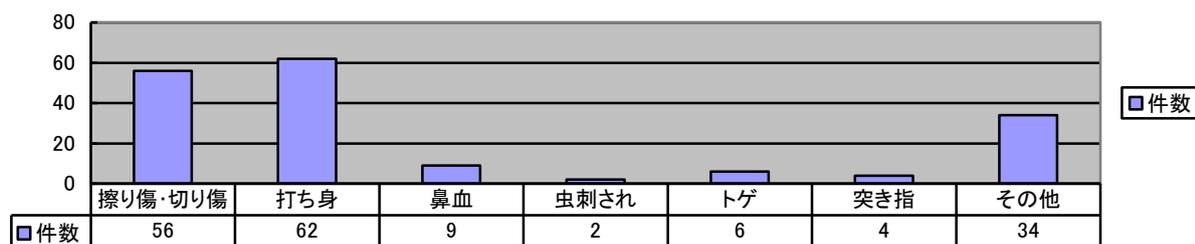
→職員による確認ミスが多く、他職員との連携が取れていなかったり、伝達ミスに繋がっているものが多い。

ヒヤリ報告(内容)



→遊び中に転んだり、打ったり等のケガが多いので、擦り傷や打ち身が多い。

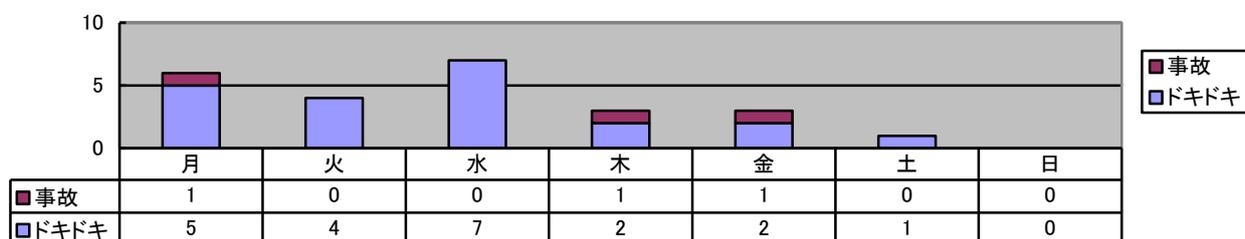
ケガ報告(内容)



⑥発生曜日

→曜日に関する特記事項はなし。

ヒヤリ報告(曜日)



⑦発生時間帯

→学童保育時間である13時～17時にかけてが多い。

ヒヤリ報告(時間)

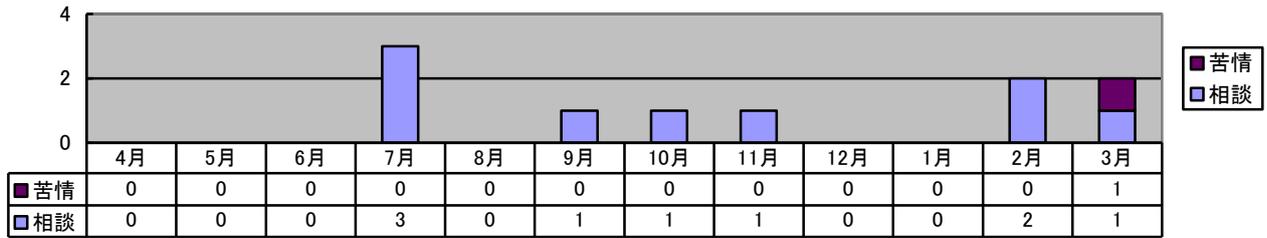


⑧まとめ

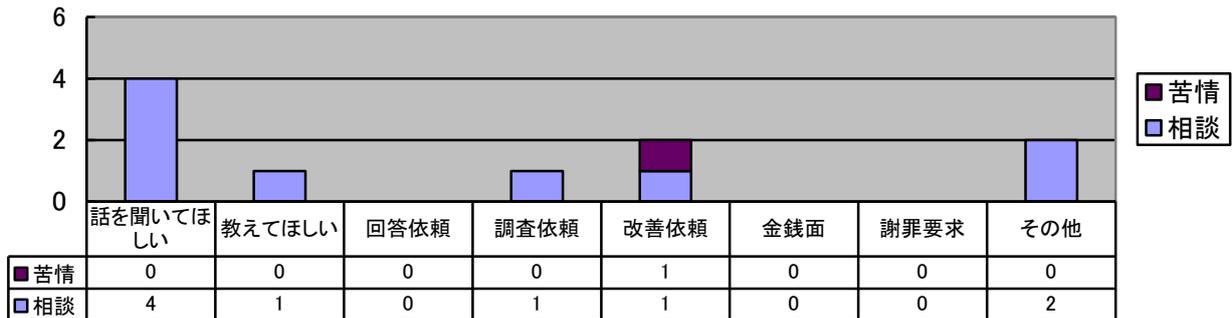
- ヒヤリ→職員同士の伝達ミスが原因となるケースが多かった。学童保育中のミスが目立つため、学童担当以外の職員もフォローができる様に積極的に声掛け等を行い、リスクの軽減に努めたい。
- ケガ報告→昨年度に比べ40件ほど、件数が減った。ケガが少なかったのか、報告漏れなのか、特定は難しいが、意識の低さが大きなケガにも繋がるため、リスクに対して高い意識を持って保育できる様、会議等を通し、意識の向上に努めていきたい。

12. 《苦情・相談結果報告》 苦情の定義→施設長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。
○報告件数…苦情1件、相談9件

苦情・相談報告(件数)



苦情・相談報告(要望)



○主な内容

相談→子どもの様子を見てほしい、学童中の出来事について聞きたい、職員の対応

苦情→学童中の出来事について聞きたい

○まとめ

相談は子ども同士のトラブルについてが、一番多かった。日頃より子ども同士の関わり合い方について、職員が間に入り話をしているが、死角となる部分でのトラブルのため、職員一人ひとりが注意深く保育に努めるようにしたい。また相談を受けた時は、迅速な対応を心がけ、利用者から信頼される学童を目指したい。

13. 《総括》

今年度も、保護者が安心して預けられる学童、集団生活を通して思いやりのある心と考える力が育める学童を目指すため、全職員が会議等で意見を出し合い、行事内容の工夫や過ごしやすい環境作りに気を配った。話し合うことによって、意識の統一化も図れ、色々な視点での意見も得られるため、今後もより良い学童保育作りを全職員で目指していきたい。